

# 子ども大学はにゅうの実践 ～おかえりセンパイ・サポーター～



## 1 実践のねらい

子ども大学はにゅうの卒業生を、サポーターとして運営に参画させることにより、異年齢間の交流を促進させ、将来の地域の生涯学習を担う未来人材として育成する。

## 2 事業計画

子ども大学はにゅうの卒業生に、サポーターとしての参加を呼び掛ける。なお、サポーターは、講義開始前に「コミュニケーションスキルアップ」のミニ講座を受講し、サポーターの役割などについて学んだ後、子ども大学の運営に協力するとともに、講義にも参加して、小学生の学習をサポートする。

| 月日          | 講義名  |
|-------------|--|
| 9 / 10 (土)  | 講義1 「身体を使った遊びの達人になろう」【埼玉純真短期大学】<br>講義2 「宇宙から眺める地球はどんなだろう」                          |
| 10 / 22 (土) | 講義3 「角帽を作ろう」【埼玉純真短期大学】<br>講義4 「空に向かって飛行機を飛ばそう！」<br>講義5 「ムジナもんでグルグル ヘキサ・フレクサゴンを作ろう」 |
| 11 / 5 (土)  | 講義6 「はにゅうの産業と歴史を知ろう」【株式会社東亜酒造】   |
| 12 / 10 (土) | 講義7 「コンピュータを使って、僕だけ、私だけの下敷きを作ろう」<br>講義8 「学習のまとめ」【埼玉純真短期大学】                         |

## 3 事業内容

### (1) 「コミュニケーションスキルアップ」ミニ講座の開講

サポーターの役割や良いサポートの仕方、上手な話の聴き方や話を聴くときのポイントなどについて、サポーターが学ぶミニ講座を開講する。

### (2) サポーターの運営参加

子ども大学に参加する小学生の受付や会場までの誘導などの運営補助を行う。

### (3) サポーターの講義への参加と小学生の活動を支援

サポーターが子ども大学に参加する小学生と一緒に講義を受講するとともに、担当グループに1～2名程度入り、小学生の活動をサポートする。サポーターはグループ内での会話や活動の補助を通して、小学生との人間関係の構築ができ、結果的に小学生が講義内容を理解し、学びをより深めることにもつながる。

### (4) 「青少年相談員協議会」との連携

サポーターには子ども大学に参加する小学生の活動をサポートするとともに、青少年相談員の活動内容を伝え、将来、地域での活動につながるよう連携を図る。



子ども大学はにゅうの7人のサポーターです



金子先生のサポーター・ミニ講座です



酒造会社での受付の様子です

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ア 今年度初めてモデル事業のサポーターを募集したところ、子ども大学の卒業生（中学生）が集まった。サポーターが子ども大学の参加者にとって、良きお兄さん、お姉さんとなり、今まで以上に活発な交流が生まれ、小学生にとっても、人とのつながりが広がっていく楽しさを知ったようであった。
- イ 本年度、サポーターとして参加した中学生7名全員が、子ども大学への参画を楽しみながら、小学生との交流に積極的に取り組んだ。特に「コミュニケーションスキルアップ」ミニ講座の内容を理解し、小学生と触れ合ったことで主体的な行動が見られるようになるなど、大きな成果を生むことになった。また、来年度も引き続きサポーターとしての参加を希望している。
- ウ 参加した子供用アンケートを基に、4日間をまとめた総合アンケートの満足度調査においては、「とても満足」が95%になり、満足度が非常に高かった。
- エ 保護者用アンケートによると、いつもと違う体験や他校・他学年と交流できる機会が子供にとって貴重な経験になったと考える保護者が多く見られた。また、サポーターが優しく、親切に教えてくれたことで、子供が楽しんで通っていたという意見も多数あった。

### (2) 参加した子供や中学生、保護者、実行委員の感想

- ア 子供（小学生）の声  
「来年、中学生になったら子ども大学はにゅうのサポーターをやりたい。」
- イ 中学生サポーターの声  
「サポーターの講義で、ただサポートするのではなく、出来そうなところは、見守るといって教わり、そこを心がけて、サポートできた。サポートは、思っている以上に難しかった。」  
「将来、保育士になりたいと思っているので、貴重な体験ができて良かった。自分から話しかけるのは、最初は苦手だったけど、最後は好きになれたので良かった。」
- ウ 保護者の声  
「姉が第1回の子ども大学（平成23年度開校）から参加させていただいて、とてもよかったので、弟にも経験させたかった。」  
「他の学校のお友達との交流もでき、学校の授業とは違う学びができるのは、とても良い。これからの学習に役立つことがたくさん得られたと思う。」  
「お兄さん、お姉さんたちがやさしくて、ここの大学に行きたい！！と家で話していた。とても楽しかったようだ。」
- エ 実行委員の声  
「中高生に募集をかけたところ、素晴らしいサポーターが集まってくれた。一人一人に感謝したい。」



講義にも小学生と一緒に参加しました

### (3) 課題

本年度取り組んだ「異年齢交流モデル事業」のサポーター制度は、初めての試みであったが、素晴らしい中学生の参加で大きな成果を上げることができた。この中学生たちを将来の地域の生涯学習を担う人材としてどう育てていくかが課題となる。



小学生と保護者を会場に案内します



学習のまとめがちゃんと出来ているかな



修了式で感謝状が贈られました